



福岡県立田川高校 3学年団 山口勝利 + 山形啓二

同じ理想、異なる手法で 生徒の主体性を育んでいく

**主体的に動く体験を通して
生徒に自信を与えたい**

山口 山形先生は、同僚であり、教子でもあります。約20年前、国語の授業を3年間担当しました。山形くんは、生徒主体の修学旅行を企画するようなスーパー生徒会長で、実際、教師の指示に頼らずに行動する生徒たちを見た旅先の人から、「この学校は生徒が先生を引率しているようだ」と言われるほどでした。当時の学年団では、「この生徒が動けば学年全体が動く。そんなリーダーを生徒の中から育てよう」と話し合っていました。その中で、山形くんが見事に開花してくれました。

山形 修学旅行など、いろいろなことを自分たちの力で動かそうとしたのは、自分に自信を持ちたかったからだと思います。「僕らは、先生たちの手を離れてもちゃんと出来ます」と、行動で示したかったのです。

山口 どんなことでも生徒に任せるほど時間が掛かりますが、その手間を厭うては生徒の成長はありません。最近では、自己主張が苦手で、自分に自信を持ってない生徒が少なくありません。教師が背中を押した時、「先生がそう言

うならやっちゃろう！」と決断できるような信頼関係を構築するためにも、日頃から生徒と対話する時間をたくさん設けたいと思っています。

山形 主体的に動く体験は、進路実現の面でも大きなプラスです。私も、修学旅行などの体験で自分に自信を持ちましたし、具体的なビジョンを描き、そこに至るプロセスを見通す力も付きました。そうした力は、目標にどうやれば近付けるかという意味で、受験勉強でも非常に役に立ちました。

**主体性の育成を待つ指導と
主体性の発揮を仕掛ける指導**

山形 とはいえ、主体的に動き、リーダーとして仲間を引っ張るのは、今の生徒にとっては簡単なことではありません。学校行事の委員長を務めた私のクラスの生徒も、自分の思いや考えを仲間に伝える言葉やタイミングが分からずに、「先生、どうしてうまく出来ん！」と涙を見せたことがあります。彼が苦しんでいたのは知っていましたが、主体性を育むためには、最低限の言葉掛けにとどめ、とにかく待つことにしました。そして、少しの変化を見逃さずに、褒めるようにしたのです。

**チームワークがあるから
次の手が素早く打てる**

山形先生には、目指すゴールを伝えるだけで、安心して後を任せられます。それはきっと私が、山形先生が高校生だった時の生徒たちを理想の形の1つとしていたから、つまり、山形先生と私が成功体験を共有しているからでしょう。ただ、目指すゴールは同じだけれど、そこに至るまでのプロセスが同じとは限りません。各々の経験や理念を基に指導するわけですから、違いがあるのは当然です。目標は同じだけれど、手法は違う。でも、お互いに尊敬し、職員室でもたくさん話し合います。そうしたチームワークがあるからこそ、困難に直面しても、知恵を出し合い、すぐに次の手が打てるのです。



福岡県立田川高校

山口勝利 50歳

やまぐち・しゅうり 教職歴28年。同校に赴任して3年目。3学年主任。国語科。進路指導部所属。福岡県立小倉東高校、青豊高校、京都高校などを経て田川高校へ。

福岡県立田川高校

◎「水平線上に突起をつくれ」という校訓は、「人にはそれぞれ持って生まれた天分があり、その天分を努力によって生かし、それぞれの分野で有為な人物になれ」と生徒に説く。「英彦山耐暑行進」「寒稽古」など、炎天下や厳寒の中で心身を鍛え、困難を乗り越える強い意志=『嶽南魂』を育む。各学年に『スーパー特進クラス』を設置し、進路目標をより明確化させた指導を展開する。

◎**設立** 1917(大正6)年 ◎**形態** 全日制/普通科/共学 ◎**生徒数** 1学年約240人

◎**2014年度入試合格実績(現浪計)**

国公立大は、名古屋大、大阪大、広島大、九州大、熊本大、北九州市立大などに55人が合格。私立大は、明治大、早稲田大、同志社大、立命館大、西南学院大、福岡大などに延べ308人が合格。

◎**URL** <http://tagawa.fku.ed.jp/>



彼が行き詰まっていることは、山口先生にもお話ししましたよね。

山口 ええ。私も、「授業を真面目に聞いとるけど、内心は苦しんどるんだろうなあ」と思っていました。そして、生徒の様子を把握しようと、休み時間での友達との会話に耳をそばだてて、「このメンバーと、こんな話をしているなら大丈夫だ」と安心したものです。

山形 私の理想は、自ら歩き出した生徒を一番後ろから見守る教師です。

山口 私は、時には働き掛けるのが好きですね。本校は伝統校でありながら、アクティブ・ラーニングに取り組むな

ど、新しいことに挑む気概を持っています。例えば、3学年団の卒業式では、伝統を受け継ぎ、厳粛に式を進めながらも、生徒の号令で校訓を高唱する、生徒主体の場面を盛り込みました。生徒が自立し、教師の手を離れたことを晴れの場で見せたかったです。

山形 卒業式での挑戦を知り、山口先生の熱意と実行力に感動しました。そして、生徒の成長のためには、それぞれの教師が持ち味を発揮することが大切なのだ改めて思いました。過去の経験に縛られず、探究心を持って行動する山口先生は、私の目標の1人です。

**手法が違うからこそ
高いチーム力を発揮できる**

生徒をより深く理解するためには、教師のチームワークが欠かせません。ただ私にも、20代の頃、「自分1人で全部できる」と思い込み、抱え込んだ時期がありました。しかし、それでは何をしているのか周囲に理解されず、学校のためにならないと気付いたのです。ただ、指導は共有しても、同じである必要はないと思います。例えば、私は生徒指導では型を重んじますが、山口先生はまずは生徒の気持ちを引き出してから、型を提示します。でも、生徒に自立してほしいという強い思いは同じです。思いは同じだけれど、手法は違う。だからこそ、高いチーム力を発揮できるのだと思います。



福岡県立田川高校
山形啓二 35歳
やまがた・けいじ 教職歴7年。同校に赴任して4年目。3学年担任。数学科。進路指導部所属。福岡県立育徳館高校を経て田川高校へ。

*プロフィールは2015年3月時点のものです